

この人こそパイオニアだった！  
いま、筆子に光が当たる意味が、  
よく分かる初めての書

鳩が飛び立つ日

# 「石井筆子」読本

男女共同参画と特別支援教育・福祉の母

津曲裕次 著

長崎純心大学大学院教授



若き筆子と生地長崎の大村湾

中学校「道徳科」(平成31年度から)「読み物資料集」に取り上げられて注目の「鳩が飛び立つ日」石井筆子」  
近年まで広く知られなかった生涯が、第一人者により、  
時代と重要人物のつながりの中に鮮やかに浮かび上がる。

学術図書出版

大空社

# 鳩が飛び立つ日「石井筆子」読本

男女共同参画と特別支援教育・福祉の母 津曲裕次 著

B5判・150頁・並製・カバー  
 (2016年3月刊) ISBN978-4-283-01325-4  
 定価(本体2,600円+税)



## 時代を先駆けていた 石井筆子

幼少時代

女子教育時代

特別支援教育・福祉時代

筆子ブーム

- 1861(文久元) 肥前大村(現・長崎県大村市)で生誕(渡辺姓)。
- 1872(明治5) 上京。翌年、官立女学校入学。英語習得。
- 1877 クララ・ホイットニーのバイブル塾に通う。
- 1879 長崎で、前アメリカ大統領グラントに会見。
- 1880(明治13)～1882 **ヨーロッパ留学**。
- 1883 鹿鳴館時代(～1886)。84年、小鹿島果(おがしま はたす)と結婚。
- 1885 華族女学校の教師(フランス語)となる。
- 1886 長女誕生(平塚らいてう[1886～1971]と同じ年)。長女(知的障害者)とともにキリスト教受洗。
- 1888(明治21) **大日本婦人教育会**・発会式で演説。以後、常集会や機関誌で活発に講演・通訳・執筆。
- 1890 次女誕生、数ヶ月で死去。
- 1891 三女誕生。10月、濃尾大地震発生、**石井亮一**(1867～1937)は被災孤女のため「孤女学院」設立(のち、知的障害児教育に着手。現・滝乃川学園の始まり)。
- 1892 夫・果、35才で病没。のち、2人の子どもと渡辺姓に復帰。
- 1895 聖公会の**静修女学校校長**になる。デンマークのヨハンネ・ミュンター(のち婦人参政権活動家)来日、親交を結ぶ。
- 1896 石井亮一、渡米、知的障害児教育の理論と実際を学ぶ。
- 1897(明治30) 孤女学院改称し「滝乃川学園」(園長・亮一)に、知的障害教育部開設。筆子は長女を学園へ委託。
- 1898 三女死去(8才)。米国デンバー市で開催の**万国婦人倶楽部大会に日本代表**として、**津田梅子**(1864～1929)と渡米。
- 1899 華族女学校退職。
- 1900(明治33) 梅子、女子英学塾(現・津田塾大学)設立。
- 1903 筆子、石井亮一と結婚。以後、**亮一と滝乃川学園を運営、障害児教育に専心**。
- 1906 滝乃川学園、巢鴨村に移転。筆子の長女、特別支援教育を受ける。
- 1911(明治44) 平塚らいてう『青鞥』発刊(元始、女性は太陽であった)。
- 1916 長女死去(30才)。**「鳩が飛び立つ日」の由来がここに!**
- 1918(大正7) 東京青山墓地に**亡き三児の墓碑「三羽の鳩」**建立。
- 1920 学園火災で犠牲者6名。閉鎖を決意するも、周囲の激励、要望に応え再開継続。学園、財団法人化。
- 1928(昭和3) 学園、現在地・東京都国立市谷保に移転。
- 1934(昭和9) 日本精神薄弱者愛護協会(現・日本知的障害者福祉協会)結成(初代会長・石井亮一)。
- 1937 筆子、軽度脳溢血、車いす生活に。6月、石井亮一死去。筆子、第2代園長となる。
- 1944(昭和19) 1月、筆子死去。\*
- 1952(昭和27) 滝乃川学園、社会福祉法人に。
- 2002(平成14) 大村市市制施行60周年記念事業「近代を拓いた女性 いばら路を知りてささげし 石井筆子の生涯」シンポジウム。
- 2003(平成15) 筆子愛用の「天使のピアノ」国立市登録文化財指定。  
**映画、ドキュメンタリー、テレビ、ラジオ、出版、シンポジウム、地域企画展などで、「石井筆子」が続々と取り上げられている。**
- 2012(平成24) 文部科学省作成『中学校道徳読み物資料集』に「鳩が飛び立つ日 石井筆子」が収録される。(2019年より新しい教科「道徳科」実施予定)

●日本近現代史上に欠かせない重要人物が多数登場

(ヨーロッパ留学の頃)



石井筆子 (1861～1944)

## 「筆子」こそ、

日本の女子教育の先導者であり、  
 男女共同参画思想の先駆者であり、  
 日本の知的障害教育・福祉の創始者  
 とでもいうべき人」(著者)

幕末、勤王派リーダーの家に生まれ、明治初頭に官立女子教育を受け、ヨーロッパに留学、鹿鳴館などで貴人洋人と交際、男女不平等に悩みながら結婚(夫・卓世)、女子教育と女性の地位確立に力を注ぐ。三人の子ども(夭折・知的障害)を育て失うなか、公的活動から退き石井亮一とともに、滝乃川学園で障害児教育に専心。

時代の奔流と置かれた苦境に屈することなく、人間本来の心と信念で、つねに自らの決断をもって拓き、実践した感動の生涯

### 【概要】

- 第1部 筆子の生涯  
 幼少/女子教育/特別支援教育・福祉時代
  - 第2部 石井筆子、研究の流れ  
 無名、の時代から復活さらにブーム、の到来
  - 第3部 石井筆子の著作と資料  
 筆子の著述・図書資料/滝乃川学園出版物/石井筆子評伝/ご当地刊行物
- 人名索引(筆子との関連を主にした解説付き)  
 (付)略年譜/文献一覧

豊富な写真(滝乃川学園秘蔵資料、初公開原稿など)と、分かりやすくやさしい語り口で、筆子の伝え遺したかったものが、ひしひしと心に迫ってくる!

〈著者紹介〉津曲裕次 (つ magari・ゆうじ)

1936年生まれ。長崎純心大学大学院人間文化研究科教授、筑波大学名誉教授、高知女子大学名誉教授、滝乃川学園石井亮一・筆子記念館顧問。知的障害児教育・福祉学、知的障害児施設史。〈主な編著書(含共編)〉『増補 石井亮一全集』、『石井筆子』、『石井亮一』、『滝乃川学園百二十年史』(以上、大空社刊)。

すべての「教育」に携わる人

教育者をめざす人・育てる人、行政に関わる人、そしてすべての「親」...

必読

●大空社刊	知的障害者教育・福祉の歩み 滝乃川学園百二十年史 滝乃川学園・津曲裕次監修編集(2011) 48,000円	シリーズ福祉に生きる 一番ヶ瀬康子・津曲裕次編(既刊68巻より)
	学校・施設アーカイブズ入門 学校・施設アーカイブズ研究会編著(2015) 2,500円	[49]石井筆子 津曲裕次(2001) 2,000円 [51]石井亮一 津曲裕次(2002) 2,000円 滝乃川学園 石井亮一・筆子が伝えた社会史 (1)女子教育から知的障害者教育へ 津曲裕次(2012) 1,600円



〒114-0032 東京都北区中十条4-3-2  
 TEL : 03-6454-3400  
 FAX : 03-6454-3433  
 URL: http://www.ozorasha.co.jp  
 E-mail: eigyo@ozorasha.co.jp

・お取扱い